

八幡川河口人工干潟清掃探鳥会

～人工干潟における人と野鳥の共生を考える～

日時 2010年7月19日(月・祝「海の日」) 9時00分～12時00分

場所 八幡川河口人工干潟

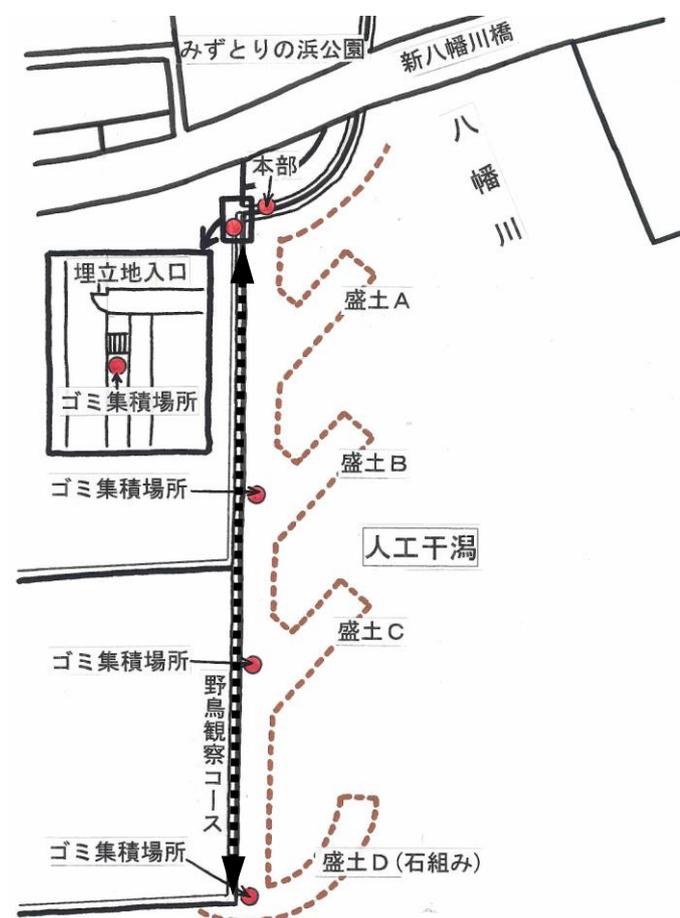
主催 日本野鳥の会広島県支部

協力 復建調査設計株式会社

スケジュール

9:00 開会
9:00～9:20 あいさつ、係の紹介、班分け、コースの説明、安全対策上の注意
9:20～10:40 人工干潟清掃
10:40～11:00 飲み物休憩、まとめ
11:00 解散
11:00～12:00 野鳥観察(希望者のみ)

人工干潟



集めたゴミの処分方法

(1) 北側護岸と盛土Aのゴミは、**埋立地入口横**に集めてください。
ゴミは、**次の区分にしたがって分別**してください。

- ① **可燃ゴミ**：紙くず
- ② **不燃ゴミ**：テグス、ビニール、プラスチック、ペットボトル、ガラス
- ③ **金属ゴミ**：空き缶、釣り針(テグスがついたままで可)
- ④ **大型ゴミ**

(2) 盛土B～Dのゴミは、**堤防下の袋の中**に入れてください。
分別は不要です。

安全上の注意事項

- (1) 帽子をかぶり、飲み物を取るなど、暑さによる熱中症にご注意ください。
体調が悪くなった場合は、各グループのリーダーに申し出てください。
- (2) 埋立地内にはトイレがありません。みずとりの浜公園のトイレをご利用ください。
- (3) 水の中や、盛土BとCのコーンを置いてある場所から中には入らないでください。
- (4) 石組みの上を歩くときには、足元に気をつけて、ゆっくり歩いてください。

人工干潟の由来と経緯

野鳥の楽園(1970年代)

1970年代(昭和40年代～50年代)、広島県は、県内の水鳥の捕獲を禁止しました。その結果、八幡川河口にも多くの水鳥が飛来するようになりました。八幡川河口と付近の海域は、鳥獣保護区として、多くの野鳥が安心して暮らせる楽園となりました。冬季には、八幡川を代表するヒドリガモなど、3000羽近いカモの群れが河口に集う場所として有名になりました。干潟を利用するシギ・チドリ類が観察されるなど、八幡川河口周辺で11目26科111種の野鳥が記録されています。

開発の代替としての自然再生(1980年代)

1987年(昭和62年)、広島県は「五日市地区港湾整備事業工事」を着工しました。その中には、水鳥の集まる自然豊かなこの地の環境を配慮し、失われる自然の代替(ミチゲーション)として、「人工干潟」と埋立地の中の「野鳥園」をセットで造成する計画が盛り込まれました。

人工干潟の歩み(1990年代～)

1990年(平成2年)に人工干潟が完成しました。しかし、土砂の流出や地盤の沈下などが生じ、人工干潟の改良が必要になりました。そこで、2001年(平成13年)に人工干潟の第Ⅱ期造成工事が始まりました。この工事は、人工干潟に「くし型」の4つの盛土を造成して、水際のラインを長くするもので、昨年12月に竣工しました。干潮時には、人工干潟にA～Cの3つの盛土が現れます。また、海側には波を防ぐための石組み(盛土D)が組まれています。

干潟の役割

① 生物生息・生産機能・・・生き物がすむ場所・生まれ育つ場所としての働き

- 干潟には、淡水と海水の混じり合った汽水域に特化し、水温や塩分の急変や満ち引きの繰り返しなどの激しい環境変化に耐えることのできる独特の生物がすんでいます。
- 干潟は、波がおだやかで水深が浅いため、表面には珪藻などの藻(も)が多く、陸沿いにはアシなどの水生植物が生えます。
- 泥の中には有機物などをえさにする微生物が多くすんでいて、高い栄養価を持っています。
- 泥をすくって食べるカニ類や、泥の中にもぐるゴカイ類もたくさんすんでいます。
- えさが多く、水深が浅いので大型の魚などの外敵が入って来られないことから、稚魚・幼魚、そして小型のハゼ類が育つ場所としても重要です。
- それらをえさにするシギやチドリなどの渡り鳥がたくさんやってきます。

② 水質浄化・緩衝機能・・・水をきれいにする働き・海が汚れるのを防ぐ働き

- 川の上流から流れてきた有機物が、流れのゆるやかな干潟にいったん堆積することによって、海の有機物の濃度が急激に上がることを防ぐ作用があります。
- 干潟に堆積した有機物は、植物プランクトンや底生藻類の栄養分として分解され、水がきれいになります。プランクトンや藻類は、二枚貝やカニやゴカイなどの底生生物に食べられ、底生生物は魚や鳥などに食べられることによって、多様な自然が保たれると同時に、有機物は干潟の外に運び出されます。
- 生き物のふんや死がいは、細菌によって二酸化炭素と水に分解されます。

③ 防災機能・・・波から陸地を守る働き

平たんな干潟は、沖合からの波を砕き、大波が陸地に到達する時のエネルギーを弱める働きがあります。

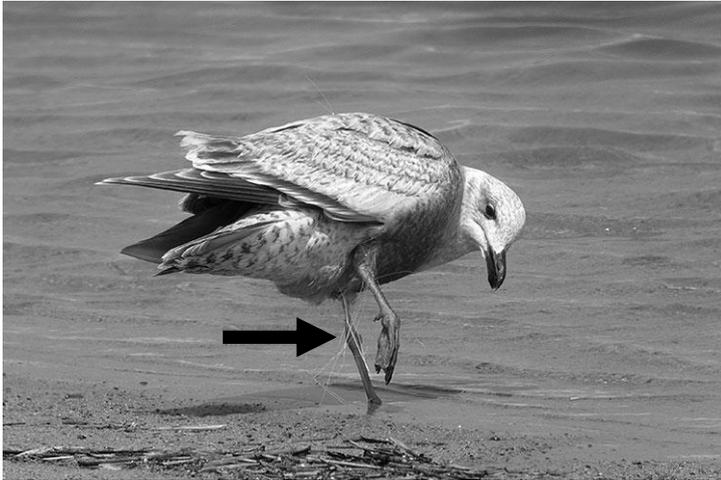
④ 親水機能・・・人が水に親しむ場としての働き

- 干潟は内湾や河口付近など、都市に近く、人々が比較的訪れやすい場所に形成されます。
- 干潟では、潮干狩りや、野鳥などの生物の観察、散歩などを楽しむことができます。

人工干潟における人と野鳥の共生

カモやカモメの仲間は、夏にシベリアなどの北の国で繁殖し、秋になると日本にやってきて、冬の間、日本で生活する**冬鳥**です。八幡川の河口では、10月から3月にかけて多くのカモの仲間が越冬し、干潟でエサをとったり、休息したりする様子が観察されます。

シギやチドリの仲間は、夏に北の国で繁殖し、冬は暖かい南の国で越冬します。日本には、春と秋の旅の途中に立ち寄る**旅鳥**で、主に干潟で生活します。羽の色が地味なので、注意しないとなかなか気がつきませんが、八幡川河口にも多くのシギやチドリの仲間がやってきます。



干潟に釣り糸や釣り針が捨てられていると、脚や翼に絡まる危険が大きくなります。

上の写真は、**脚に釣り糸がからまったオオセグロカモメ**です。いったん釣り糸がからまると、外れることはほとんどありません。

下の写真は、**脚に釣り糸がからまったソリハシシギ**です。脚の血行が釣り糸でさまたげられ、脚が腫れています。このソリハシシギは、そのまま旅立ちましたが、このあと恐らく脚は脱落してしまったと考えられます。

釣り糸がからまったり片脚になってしまった野鳥は、えさをとったり敵から逃げるのがうまくできず、長生きできません。

今回のような清掃探鳥会を定期的実施することによって、野鳥が安全に生活できる環境を守っていくことも大切です。

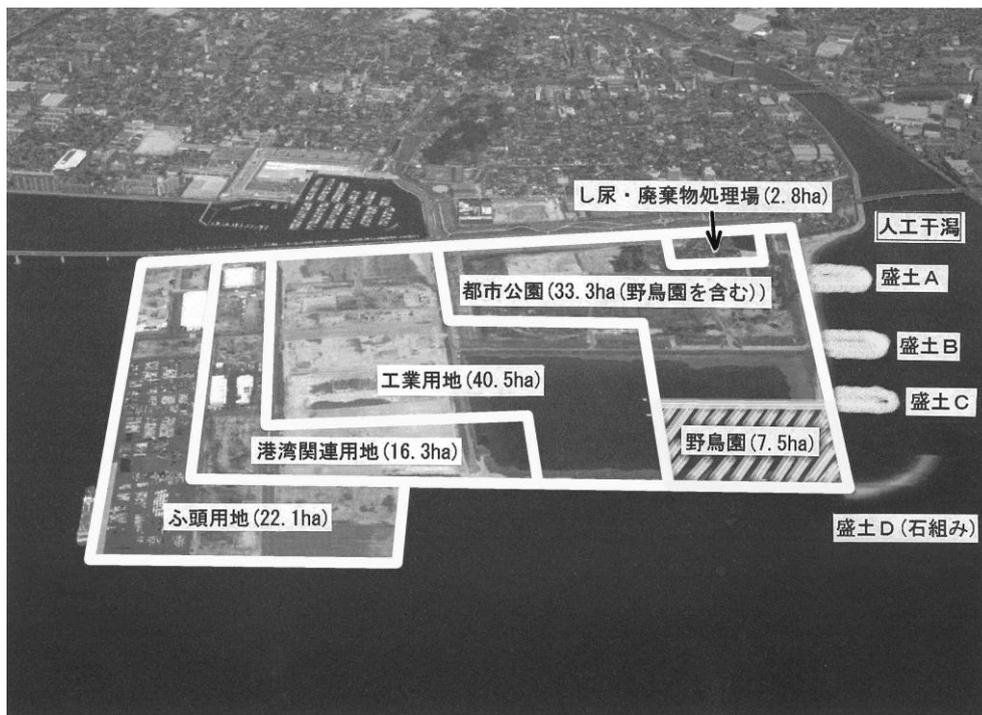
カモの仲間は、日本だけでなく海外でも、多くの種類が狩猟鳥になっています。海外の狩猟区域で、猟銃で撃たれ、猟犬に追われていたカモたちは、狩猟が禁止されている八幡川河口にやってくると、まず埋立地の中の広い水面のように安心できる場所に降り立ち、周囲の安全を確認してから、徐々に河口の干潟などに出ていきます。

30年前、八幡川などの干潟では、潮干狩りをしている人のそばで、多くのシギやチドリがえさをとっている光景が見られました。野鳥たちは、潮干狩りをしている人は安全であることを知っているのです。しかし、猟銃のような形のもの、爆発音、犬などの動物などにはとても警戒心が強く、私たちが野鳥を観察しているときも、黒くて長い三脚を伸ばしただけで、近くの野鳥たちが一斉に飛び立つことがよくあります。

私たちは、人工干潟で「人と野鳥が共生」するためには、次のことが大切だと考えています。

- ① 人工干潟で、魚釣りをしないこと、釣り糸や釣り針を残さないこと
- ② " 犬を散歩させたり(走り回らせたり)、海で泳がせたりしないこと
- ③ " 花火をしないこと
- ④ " バーベキューをしたり、大声で騒がないこと
- ⑤ 河口に、レジャーボートを乗り入れないこと

埋立地の現状と計画



埋立地は、日本の長期的な経済の低迷により、完成が大幅に遅れました。その結果、埋立地内部に広大な淡水の水面が残され、良好な二次的自然環境が復元・再生した状況となりました。

広大な淡水池、アシ原、草地と人工干潟があいまって多様な環境が集中しているため、冬季のカモ、夏季に繁殖するカイツブリやオオヨシキリなど多くの野鳥がこの区域に生息しています。

昨年3月、埋立地内の広大な池を埋める工事が再開されました。また、産業廃棄物処理場は、現在、モニタリングが続けられており、将来は公園として整備されることになっています。

埋立地の中の野鳥園は、人工干潟とセットで計画され、人工干潟の「後背地」として、また、人と野鳥の生活の「緩衝地帯」として、とても重要な役割があります。しかし、7.5ha という面積は科学的に算定された面積ではなく、人と野鳥が共生するためにはもっと広い面積が必要です。また、公園も、野鳥が生息するためには、芝生を植えただけの単純な緑地ではなく、多様な環境が必要です。

私たちは、①現在の池をできるだけ残すこと、②人工干潟に接した公園の部分、野鳥が生息できる環境にすること、を県に要望しています。

八幡川探鳥会のご案内

広島県支部では、支部創設以来30年間、毎月、八幡川河口で探鳥会を行っています。また、八幡川以外の場所でも、県内のさまざまな場所で探鳥会を実施しています。探鳥会には、どなたでも参加できます。ぜひ、いっしょに野鳥の世界を楽しみましょう。

☞ 8月と9月の八幡川探鳥会・・・8月21日（土）9時30分より
9月12日（日）9時30分より

※参加費：200円（中学生以下は無料）

※小学生以下のご参加の場合、保護者が同伴してください。

※詳細は、支部報「森の新聞」、ホームページ、みずとりの浜公園の掲示板などをご覧ください。

★会員募集中★

日本野鳥の会では、会の活動を支援していただける会員を募集しています。

○おおぞら会員(本部+支部両方の会員)・・・・・・・・・・年会費8000円
⇒会誌「野鳥」と支部報「森の新聞」をお届けします

○赤い鳥会員(支部のみの会員)・・・・・・・・・・年会費4000円
⇒支部報「森の新聞」をお届けします

○入会金：1000円（会費の自動引き落としの場合など、減免制度があります）

■資料の中の“キャンペーンハガキ”をお送りください。入会案内と会誌「野鳥」をお送りします。